

日米豪共同訓練（コープ・ノース 25）の実施について

2月3日から2月21日の間、航空自衛隊は日米豪共同訓練「コープ・ノース 25」を実施しました。

本訓練には、航空自衛隊のF-35A戦闘機、E-2D早期警戒機およびKC-46A空中給油・輸送機が初参加し、各種訓練を通じて部隊の戦術技量を向上させるとともに、三か国の相互運用性の向上を図りました。

なお、本訓練は昨年5月及び11月の日米豪防衛相会談で発表された共同声明において、「今後二年間で以下の演習等を含め、三か国全てにおける日米豪のF-35戦闘機共同訓練を実施する。米国におけるコープ・ノース2025、日本における武士道ガーディアン2025、豪州におけるピッチ・ブラック2026」（5月共同声明）、「我々はコープ・ノース、武士道ガーディアン及びピッチブラックの演習を通じ、戦闘機や輸送機などの航空アセットを2025年以降三か国全てに相互展開することを含め、三か国間の協力活動を増加させる将来の機会を引き続き探求する」（11月共同声明）を実現したものです。

航空自衛隊は今後も、共同訓練等を通じて同盟国・同志国との連携を強化し、地域の平和と安定のため取り組んでまいります。

